

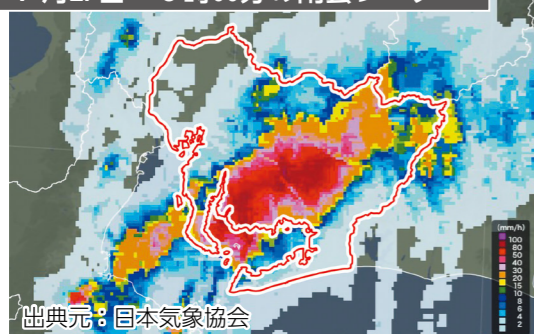
豪雨からまちを守る

すいぜんちょりゅう  
「水田貯留」

近年、全国的に想定を超える大雨による河川の氾濫や土砂災害等が毎年のように発生しています。本市では、より災害に強いまちづくりの実現に向け、市民、事業者及び行政が協働して雨水対策の取組みを推進しています。今回はその一つである「水田貯留」についてご紹介いたします。



7月27日 0時00分の雨雲レーダー



7月26日～27日にかけての豪雨

7月26日～27日にかけて猛烈な雨が降り、愛知県に「記録的短時間大雨情報」が発表されました。本市においても、時間最大雨量92mmと観測上過去最高を記録し、河川の水が溢れ、市内各地で家屋の浸水被害がありました。市では、このような大雨による浸水被害の軽減を図るため、水田貯留に取り組んでいます。(東海豪雨(H.12)57mm/h、8月末豪雨(H.20)77mm/h)



農地を生かした水田貯留

水田貯留とは、田んぼがもともと持っている水を貯める機能を利用し、大雨の際に一時的に田んぼに水を貯め、川へゆっくり排水することで、農地や市街地の洪水被害を軽減する取組みです。市では、市域のおよそ4割を占める農地を生かし、過去に浸水被害のあった市街地の上流における田んぼで水田貯留を推進しています。この取組みは、国土交通省所管のグリーンインフラ官民連携プラットフォーム主催の「第1回グリーンインフラ大賞」防災・減災部門で優秀賞を受賞しました。

水田貯留には、「水路流量調整方式」と「排水マス流量調整方式」があります。どちらの方式も、水田にいつもより「もう少しだけ余分に」雨水を貯めることができます。

水路流量調整方式

「たくさんの水田で、同時に」雨水を貯める方式で、水路の流末にゲートのついたマスを設置し、一時的に水田と水路に雨水を貯めます。

実施中の地域▶安城町、堀内町、小川町、桜井町、北山崎町



水田貯留について  
もっと知りたい!

アンフォーレで、水田貯留について学べる展示を実施しています。皆さんぜひ足を運んでください。  
●期間 9月30日(金)まで



実際に排水マス流量調整方式で水田貯留を実施している、耕作者の神谷敏さん(さとし)にお話を伺いました。



神谷さん(新田町)

- ◆水田貯留について率直な感想を教えてください。  
水田貯留に協力した当初は、田んぼに水が貯まりすぎないかと心配しましたが、実際そうではなく、作業上も問題ありません。事業を拡大していくのであれば、今後も協力したいです。
- ◆水田貯留を導入し、何か変化はありましたか？  
水害に対する意識が変化しました。大雨が降った時に、浸水地域や水田貯留の効果が気になるようになりました。
- ◆水田貯留に協力して良かったことはありますか？  
水田貯留の効果が出ているようなので良かったです。また、水田貯留用にマスを新しく交換してもらえたので、5月に発生した明治用水頭首工の漏水事故時にも、しっかり田んぼに水を貯めることができました。
- ◆今後も事業を拡大していく上で、市に対する要望やご意見はありますか？  
農地を守るために、水田貯留事業についてたくさんの人に知ってもらえるようPRして欲しいです。

排水マス流量調整方式

「ひとつひとつの水田で」雨水を貯める方式で、排水マスに水田貯留専用のせき板を設置し、降雨時に普段の水位より5cm多く雨水を貯めます。

実施中の地域▶古井町、堀内町、新田町、北山崎町  
今後実施予定の地域▶安城町、池浦町、大山町、山崎町、宇頭茶屋町、里町、橋目町、高木町

水田貯留実施の田んぼは約50haで、25mプール20杯分程度の雨水を貯める能力があり、下流の被害を軽減する役割を果たしています。市では今後も農業に従事する方々等のご理解を得ながら積極的に進めてまいります。

